

特集3

今治市

ワインで繋ぐ
地域づくり。大三島みんなの
ワイナリー

川田 佑輔

なぜ大三島でワイン作りをするに至ったか

私が初めて大三島に来たのは2014年の夏でした。当時山梨大学でワイン科学を専攻

する学生だった私は、建築家・伊東豊雄さんの提案で、大三島でのワイン造りの可能性について調査をしていました。伊東さんはこの島に自身の伊東豊雄建築ミュージアム（以下TIMA）が開館した事がきっかけで、大三島に通うようになり、この島を元気にしたいという想いから「日本一美しい島・大三島をつくるプロジェクト」を展開され島内を中心に様々な活動をしていました。

伊東さんとは、奥様の主催するNPO団体の活動を通して知り合いました。伊東さんが瀬戸内で地域づくりをしているとうかがった時に、頭の中に「瀬戸内＝地中海」のイメージが浮かび、耕作放棄地を新しく葡萄畑に生まれ変わらせ、大三島に新しい産業としての葡萄栽培・ワイン造りを提案したのがこのプロジェクトの始まりでした。

TIMAの企画展でワイン造りプロジェクトを展示したところ、島の中で協力者が現れ、土地を貸して下さる方も現れて、どんどん前に進み始めました。そして移住者を中心とした島の有志で「大三島でワインをつくる会」を立ち上げ、その年に葡萄の苗木の植え付けをスタートすることが出来たのです。

栽培一年目は順調に葡萄が生育し、事業化の準備も整ったので、2015年に法人化し、代表を伊東豊雄さんとする「株式会社大三島みんなのワイナリー」を立ち上げました。

イノシシの食害や害虫害、天候不良に悩まされながらも、2017年には岡山県のワイナリーに委託し、大三島初となる赤ワイン「島紅（しまんか）」をリリースすることが

出来ました。

2018年には白ワインの「島白」が加わり、2019年には大三島島内に醸造所が完成し、今では栽培から醸造までのすべての過程を大三島で行っています。

みんなで造るワイン

1本のワインが出来上がるには葡萄の植え付けから始まりですが、時には病気になったりイノシシに食べられてしまったり、葡萄が収穫されてワインに変わっていく過程には様々なドラマがあります。私たちはこの葡萄の成長を自分達だけではなく、みんなで見守り、みんなで収穫を喜びワイン造りの楽しみを分かちあいたいという想いから、社名を「大三島みんなのワイナリー」と名付けました。地元の農家さんや苗木オーナーの皆様、様々な方々に助けられ、協力してもらい大三島のワインが生まれました。

醸造所建設にあたっては、伊東さんが展開する大三島の別プロジェクトを担当していた神奈川大学曾我部研究室の協力を得て実現しました。元々仮設



ピカピカのタンクが並ぶ醸造所内。醸造所の屋根は島に古くから見られる煙草小屋をイメージした腰屋根造りとなっています。

売店として使用されていた建物を、使用後に設計変更を加え、大三島に移築し、新たにワイナリーとして生まれ変わらせたのでした。

設営の現場では、地元の大工さんの他、大学生も作業してくれたおかげで、6カ月という短期間で醸造所が完成したのです。

この様にいろいろな方々の手や思いが結びつき、「みんなのワイン」が出来ました。



大三島ワイナリーで醸されたワイン達

この生業を継続するにあたっての課題

●土地を受け継ぎ守る

ワイン造りは他の酒造とは違い、原料の葡萄から育てなければなりません。つまり、中心となるのは農業なので、毎年台風や鳥獣害等のリスクとも戦い、葡萄の生産量を安定させていかなければなりません。

また、農業は一人ではできません。地元農家さんや周囲の生産者との信頼を築き、困ったときに助け合うことが出来る環境を整えていかななくてはなりません。

栽培を始めて早くも5年が経ち、島内に契約農家として葡萄栽培に協力して下さる方たちも出てきて、すこしずつ大三島での

葡萄栽培が認知されつつありますが、これからの土地で土を耕してきた方々の想いを受け継ぎ、守っていくことを大切にしていきたいです。

●ワイン文化を醸す

現在、100%国産葡萄を原料とした「日本ワイン」の人氣が高まり、国内外でもその消費量は増加傾向にあります。また、山梨や長野を始めとした主要ワイン産地では地域ぐるみでのワインのブランド化やワイン産業のネットワーク化を行っています。

しかし、愛媛県を始め四国四県にはワイナリーの数も少なく、まだまだワイン文化が根付いていないとは言えません。四国しまなみエリアでのワイン生産のパイオニアとして、後進となるワイナリーの設立を助け、地域全体で競合する形ではなく、共同する形でワイン文化を盛り上げ、今後日本の他地域の生産地と肩を並べていきたいと思っています。

今後の展望

去年醸造所ができ、会社設立当初に思い描いていたワイン造りをようやくスタートする事が出来ました。しかしまだまだ産声を上げたばかりで生産規模も小さく、まずは安定した生産による経営の安定化が当面の目標となります。また、同時に大三島島内の様々な事業者さんと連携し、大三島を盛り上げていくと共に、近隣の他ワイナリーとも共同し、ワインツーリズムやワインイベントの実施な

ど、一緒に中四国・しまなみエリアのワインを盛り上げて行ければと思います。



ワイナリーツアーでは多くの方に参加いただき大三島でのワイン造りを知って頂きました

大三島概要

大三島は、現在およそ6,000人が暮らす、愛媛県最北端の島です。島の中心部には「日本総鎮守」と呼ばれ、古くから多くの信仰を集めてきた大山祇（おおやまづみ）神社が鎮座し、歴史ある「神の島」としても知られます。

温暖な気候に恵まれ、みかんをはじめとした柑橘農業が盛んです。無農薬・有機栽培にこだわるIターン移住の農家さんも多いのですが、近年は高齢化により、耕作放棄地が増えています。